

平成 27 年度

安曇野市 協働事業事例集



平成 28 年 3 月

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

1 趣旨・目的

地方分権が進み、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、多様化・高度化する市民ニーズに対応していくために、市民（ここでは、全ての安曇野市民、区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関等を含める）と行政がお互いの特性を理解し、役割分担により、その特性をそれぞれが主体的・自発的に発揮しながら、対等な立場で課題解決に取り組んでいく、協働のまちづくりが求められています。

安曇野市では、平成26年3月に「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」を策定し、これに基づき、市民と行政が協働を進めるための仕組みづくりに努め、庁内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

本年度、各部局で実施された協働事業を収集し、本市における協働の取り組みをより充実させることを目的として、協働事業事例集を作成しました。

2 収集の対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会
NPO、消防団、PTA、農業協同組合等

3 協働事業評価の実施


事業が完了した協働事業は、事業を実施した当事者それぞれにおいて自己評価を実施し、その評価結果を共有し、課題や改善策等について確認した後、総合評価を行います。総合評価の結果は、「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会」に報告し、改善策等についてアドバイスを受けます。

協働事業紹介 目次

| 番号 | 事業名 | 担当部署 | ページ |
|----|-------------------------------|--------------------------|-----|
| 1 | 安曇野の田園風景を楽しむ 田んぼ作りレクリエーション | 政策部 政策経営課 | 3 |
| 2 | 安曇野市男女共同参画フォーラム 2015 | 総務部 人権男女共同参画課 | 4 |
| 3 | 第 36 回 あづみの祭り | 市民生活部 豊科地域課 | 5 |
| 4 | アルプス花街道事業 | 市民生活部 豊科地域課 | 7 |
| 5 | 信州ふるさとの道ふれあい事業 | 市民生活部 堀金地域課 | 8 |
| 6 | 光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト | 市民生活部 地域づくり課 | 9 |
| 7 | ふるさと再発見リレーウォーク | 市民生活部 地域づくり課 | 10 |
| 8 | 不用食器リサイクル活動 | 市民生活部 廃棄物対策課 | 11 |
| 9 | 第 1 回信州安曇野ハーフマラソン事業 | 商工観光部 観光交流促進課 | 12 |
| 10 | 第 31 回信州安曇野あやめまつり | 商工観光部 観光交流促進課 | 13 |
| 11 | 第 32 回信州安曇野わさび祭り | 商工観光部 観光交流促進課 | 14 |
| 12 | 第 9 回安曇野花火 | 商工観光部 観光交流促進課 | 15 |
| 13 | 第 47 回安曇野観光草競馬大会 | 商工観光部 観光交流促進課 | 16 |
| 14 | 第 32 回早春賦まつり | 商工観光部 観光交流促進課 | 17 |
| 15 | 第 25 回信州安曇野薪能 | 教育部 文化課 商工観光部 観光交流促進課 | 18 |
| 16 | 第 11 回あづみの公園早春賦音楽祭 | 教育部 文化課 商工観光部 観光交流促進課 | 19 |
| 17 | 第 4 回そば猪口アート公募展 | 教育部 文化課 | 20 |
| 18 | 安曇野文化刊行事業 | 教育部 文化課 | 22 |
| 19 | 第 16 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 | 教育部 文化課 | 24 |
| 20 | 興味津々あづみの F O O D | 教育部 文化課 | 25 |
| 21 | 安曇野市美術館博物館連携事業 | 教育部 文化課 | 26 |
| 22 | あづみのフィルムアーカイブ事業 | 教育部 文化課 | 28 |
| 23 | 安曇野さんぼ市 | 教育部 図書館交流課 | 29 |
| 24 | 安曇野スタイル | 教育部 図書館交流課 | 30 |
| 25 | 安曇野市子ども文化祭 | 教育部 生涯学習課 | 31 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野の田園風景を楽しむ 田んぼ作りレクリエーション |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 岩原の自然と文化を守り育てる会 | |
| | 市側 | 政策部 政策経営課 | |

稲刈り&はぜ掛け作業

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|--------------------------|
| 取組の背景・課題 | 昔ながらの田園風景を再現し継承していくことが必要であるとの課題意識から、国営アルプスあづみの公園予定地内の田んぼを有効活用する取り組みとつなげていくこととなった。 | | |
| 事業の目的 | 「安曇野のひと昔前のはぜ掛け風景の再現」を通じて、田園風景が内包する地域の伝統文化の掘り起しとその継承を図って行く。また、田んぼ作りを通じて地域の振興を図る。 | | |
| 成果目標 | 田植えから稲刈りを通じた昔ながらの田園風景の創出 田んぼ作りを通じた地域コミュニティの活性化 | | |
| 実施場所 | 堀金烏川岩原（国営アルプスあづみの公園予定地） | 事業期間 | 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 |
| 事業の概要 | 国営公園の敷地を活用した安曇野の美しい田んぼの風景とその周辺の岩原地区の自然や伝統文化を残しながら、コミュニティレクリエーションを実施する。具体的には、同公園の敷地に予定されている田んぼの田植え、稲刈り等により昔ながらの田園風景を再現し、これらの作業を通じた地域住民の親睦を図る。 | | |

【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|---|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 田植え作業 |
| | 相手側 | アルプスあづみの公園管理センターとのイベント調整 田んぼの教室取材対応、岩原区の住民への参加呼びかけ |
| | 市側 | 農機具等謝金支給、記録謝金支給 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | はぜ掛けの風景などにより昔ながらの田園風景を作り、また作業後のお小屋などにより参加者の親睦を図ることで地域の活性化につながった。 |
| 協働による効果 | 役割分担に基づき、目的の実現に向けてそれぞれの分野において活動を行うことができた。 |
| 課題・改善点 | 事業計画、進捗状況の確認、反省点等について、実施団体と認識を共有する機会が少なかった。事業計画の段階で、目的・課題等の共通認識を持った上で、密接に連携を図る必要があった。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | |
|-------|--|----------------------|
| 事業の名称 | 安曇野市男女共同参画フォーラム 2015 | |
| 協働の形態 | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（事業委託） | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市男女共同参画フォーラム実行委員会 |
| | 市側 | 総務部 人権男女共同参画課 |



トークセッションの様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------------------|
| 取組の背景・課題 | 男女共同参画社会の実現をめざし、人々の固定的な性別役割分担意識を解消し、社会における制度・慣行の改善につなげていくための啓発活動として行っている。 | | |
| 事業の目的 | 男女共同参画に関する様々な問題を提起し、意見交換を通じて、市民の意識の啓発を図る。 | | |
| 成果目標 | 推進団体との協働によるフォーラムの成功、参加目標 200 人 | | |
| 実施場所 | 穂高公民館 講堂 | 事業期間 | 平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月 |
| 事業の概要 | <p>平成 27 年 7 月 11 日（土）に、誰もが性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現や自分らしく生きることを考える機会として、市制施行 10 周年記念安曇野市男女共同参画フォーラム 2015 を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング ペーパーサート（紙人形劇）「役職に生かしてみよう、女性の能力」 ・第 1 部 講演 講師 前長野県副知事 加藤さゆりさん 演題「女性の力で地域を元気に」 ・第 2 部 トークセッション（トークゲストと会場との意見交換） トークゲスト 加藤さゆりさん、赤沼留美子さん（有双丸・ラボ パートアルバイト労働総合研究室代表取締役） <p>テーマ「これからの働き方をどう考えるか」</p> | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|--|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 計画立案、当日の会場設営、撤去、広報活動 |
| | 相手側 | 講師依頼、会場準備、フォーラムの運営、講師等接待 |
| | 市側 | 事務局（会場提供（使用料減免）、チラシ・当日資料作成及び用意、スタッフ調整） |

【実施結果】

| | |
|-----------|------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 昨年から参加者数が横ばい状態である。 |
| 協働による効果 | 主体的な役割分担により、効果的に実施できた。 |
| 課題・改善点 | 若年層の参加者が少ない、広報活動の方法など。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第 36 回あづみ野祭り |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | あづみ野祭り実行委員会 | |
| | 市側 | 市民生活部 豊科地域課 | |

踊り連の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 豊科地域独自のお祭りを開催し、地域住民の連帯感や豊科地域の特色を生かした観光の促進、文化厚生を発展させる必要がある。そのため、行政と商工会、実行委員会が連携することにより、それぞれの主体が持つ長所を生かした事業運営が可能となった。 | | |
| 事業の目的 | 市民の連帯感と「心のふるさと」づくりに努め、観光の促進と文化厚生の発展に資し、かつ産業経済の進展に寄与すること。 | | |
| 成果目標 | 地区公民館を中心とした地域住民同士の連帯感の醸成、商店街の活性化 | | |
| 実施場所 | 国道 147 号線 （新田交差点～成相交差点） 豊科駅前通り （鯉昌交差点～旧 NTT 前） | 事業期間 | 平成 27 年 7 月 25 日 |
| 事業の概要 | 第 36 回あづみ野祭り実施イベント ・安曇野ばやし踊り ・安曇野太鼓による演奏（オープニング） ・安曇野市消防団音楽喇叭隊による行進、開会式のファンファーレ ・こども広場 木工広場、ヨーヨー釣り、ジュース等販売など ・安曇野ふれあい広場 安曇野太鼓、休憩スペースなど ・まちづくりイベント 「たんぽぽ」無料ソフトドリンクサービス | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|---|
| 役割分担 | 一緒の取組 | あづみ野祭りの運営及び事前準備 |
| | 相手側 | 協賛金の確保、各種イベント・出店との調整、交通防災関係の調整、必要備品の整備、会計 |
| | 市側 | 補助金の負担、踊りの練習会場の確保、運営会議の調整、交通規制等各種申請、広報 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | <p>あづみ野ばやし踊りに参加した地区公民館や団体、企業は、あづみ野祭りに向け何度も踊りの練習を実施し、本番を迎えた。当日も各連とも和気藹藹とした雰囲気ですらに熱気をもって、あづみ野ばやし踊りを踊っていた。これにより、地域住民間・市民同士の連帯感が培われ「心のふるさと」づくりに寄与した。</p> <p>また、あづみ野祭り当日は市内外から約 10,000 人の人出があり、安曇野市の観光面、地域商店街の振興と活性化に資するイベントとなった。</p> |
| 協働による効果 | <p>地元企業からの協賛金集め、消防団や安協、商工会青年部との連携、出店に出店など地域に密着した商工会ならではの人脈を駆使し、事業を円滑に行うことができた。</p> |
| 課題・改善点 | <p>出店の出展や交通の面において、年々安全対策に対する要求が高くなっている。限られた資金の中で、どのように安全で事故のないあづみ野祭り運営を行うかが課題となる。</p> <p>あづみ野祭り実行委員会という組織はあるものの、まだ事務局の支援によって事業運営が成り立っている面も多く、協働という観点からそれぞれの役割分担について常に見直しを図っていく必要があると思われる。</p> |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | アルプス花街道事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（事業委託） | | |
| 実施団体 | 相手側 | アルプス花街道実行委員会 | | |
| | 市側 | 市民生活部 豊科地域課 | | |

田沢街道に植えられたマリーゴールド

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------|
| 取組の背景・課題 | 長野オリンピック開催をきっかけに安曇野の玄関口である県道田沢柏矢町停車場線を花で彩ることにより、訪れる国内外の観光客をお出迎えする目的で始まったアルプス花街道事業は、現在では市内10カ所へと広がり通りかかる観光客や市民の目を楽しませている。 | | |
| 事業の目的 | 花を定植することにより、安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、自然と人にやさしいまちづくりを推進するため、住民の創意工夫による美しい景観の形成を目指すものとする。 | | |
| 成果目標 | 市内10カ所の全区画で花を定植し、管理する。また、雑草やごみの除去など道路美化活動に努める。 | | |
| 実施場所 | 市内10カ所の花街道 | 事業期間 | 平成27年5月～11月 |
| 事業の概要 | 市内10箇所で花木等を植栽する。花の栽培は、実行委員会の構成団体で一定の区間を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理をします。 平成27年度は、85団体1585人が活動に参加し、市内の街道を花で彩った。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | アルプス花街道実行委員会及び事業の運営 |
| | 相手側 | 花の植栽、管理、道路美化活動 |
| | 市側 | 事業に関する会議の運営 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 市内10箇所の花街道にマリーゴールドが定植され、概ね目標は達成できた。 |
| 協働による効果 | 通りかかる人々の目を楽しませる花を定植、管理できた。また、作業を通じて参加した市民の連帯感を醸成することができた。 |
| 課題・改善点 | 団体・参加者の減少により管理の行き届かない区画があった。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | 信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム) |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 () | |
| 実施団体 | 相手側 | 岩原ひまわりクラブ | |
| | 市側 | 市民生活部 堀金地域課 | |

協力して植樹した花

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 平成 25 年 7 月 2 日に岩原ひまわりクラブ・市・安曇野建設事務所で 3 者協定を結ぶ。各々の役割分担の遂行が課題とされる。 | | |
| 事業の目的 | 長野県が管理する道路において、地域住民が主体で行う道路の美化活動を行政が支援し、生活空間の一部である道路への愛着心を深めていただき、地域環境の向上を図る。 | | |
| 成果目標 | 各々の役割分担の達成 | | |
| 実施場所 | 主要地方道塩尻鍋割穂高線 (堀金烏川 (岩原) 地区) | 事業期間 | 平成 27 年 5 月～11 月 |
| 事業の概要 | 岩原ひまわりクラブは、地域住民と協力し、歩道および歩道に設置された植樹帯等に花などを植え、良好な地域環境の保持を努める。市は、岩原ひまわりクラブ及び建設事務所との連絡調整を行うとともに、岩原ひまわりクラブが収集したゴミの処理に協力する。 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|--------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 無し |
| | 相手側 | 歩道および歩道に設置された植樹帯等の美化清掃作業 |
| | 市側 | ゴミの処理 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--------------------|
| 成果目標の達成状況 | 各々の役割分担を達成 |
| 協働による効果 | 道路の美化と地域環境の向上 |
| 課題・改善点 | ゴミの処理を適切な時期に実施すること |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト | |
| | 市側 | 市民生活部 地域づくり課 | |

多くの市民による植樹の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|----------------------------------|
| 取組の背景・課題 | 光城山の代名詞でもある桜は近年老木化が進み、開花状況が乏しくなっており、地元では早期の植え替えが望まれていた。そこで、平成 26 年度に光城山の所有者や地元区、NPO と市にて、「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」を設立し、協働により桜の植栽や周辺自然環境の保全、地域の歴史・文化の伝承に取り組んでいる。 | | |
| 事業の目的 | 桜の老木化が進む光城山に市民により桜を植樹することで、桜の名所としての光城山を守り育てていくとともに、広く市民に対し郷土愛を育む。 | | |
| 成果目標 | 市民と協働により、光城山に 300 本の桜の植栽を行う。 | | |
| 実施場所 | 光城山 | 事業期間 | 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 |
| 事業の概要 | 植樹に参加する市民を公募し、平成 27 年 11 月 28 日（土）に市政施行 10 周年を記念して、約 480 人の市民参加により、光城山山頂付近に 300 本の桜（神代曙）を植樹した。また、参加者へ光城山の樹木、地域の歴史・文化について、本プロジェクトで勉強してきた内容を掲載したパンフレットを配布し、周知を図った。 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|----------|-------|--|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 植栽個所の選定（現地踏査）、植栽事業準備作業、植栽事業運営 |
| | 相手側 | 植樹に向けた各種検討、鹿対策防護柵の作成、桜の育成管理 など |
| | 市側 | 事務局（予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、植樹参加者のとりまとめ など） |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 十分に達成できた。 |
| 協働による効果 | 主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。 |
| 課題・改善点 | 今後の桜の育成管理、光城山を中心とした里山の保全活動の輪を広げる |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 不用食器リサイクル活動 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 不用食器リサイクル実行委員会 | |
| | 市側 | 市民生活部 廃棄物対策課 | |

不用食器リサイクル

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 家庭から排出される不用となった食器は、不燃ごみとして埋め立て処分していましたが、循環型社会の形成推進の観点から回収を行い、希望する方に無償で配布しました。また、利用されない食器は資源の有効活用のため中間処理業者（粉碎処理）に委託し、陶器の原料として再生利用しました。 | | |
| 事業の目的 | ごみ減量化対策の一環である循環型社会の形成推進を図る。 | | |
| 成果目標 | 市民と協働で不用食器の回収を行ってリユースの場を提供し、不燃ごみの減量化と資源の有効活用につなげた。 | | |
| 実施場所 | 穂高プール駐車場 | 事業期間 | 平成27年9月26日～9月29日 |
| 事業の概要 | 平成27年9月26日に不用食器の回収を行い、会場内に再利用スペース「もったいない市」を設け、同日から29日の間、希望者に配布した。再利用されない食器（約3トン）を陶器の原料として再生利用するため、岐阜県土岐市の中間処理業者に運搬し、資源の有効活用を図った。また、10月10日に開催された「安曇野市環境フェア2015」でも、「もったいない市」を実施し、リユースの場を提供して大きな成果を得た。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|--------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 会場準備・片付け |
| | 相手側 | 不用食器の仕分けや搬入者の誘導等、再利用スペースの運営 |
| | 市側 | 回収場所の提供、不用食器の運搬・運搬費用の負担・住民への広報 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 概ね達成できた。 |
| 協働による効果 | 主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。 |
| 課題・改善点 | ①再利用スペースの拡大・期間延長②市民への周知・広報③搬入量の計画的な検討 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 第1回信州安曇野ハーフマラソン事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 信州安曇野ハーフマラソン実行委員会 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 | | |

拾ヶ堰沿いを走るランナー

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 市となって初めて開催するハーフマラソンの大会であり、市の一体感の醸成と交流人口の拡大を図るため、全国からランナーを募集するとともに、市民や事業者、行政等が一体となった運営体制を構築する。 | | |
| 事業の目的 | 市制施行10周年を記念し、安曇野の豊かな自然やそこに暮らす温かい人々の魅力を発信するとともに、市の一体感の醸成と地域経済の活性化を目的とする。 | | |
| 成果目標 | 全国から参加するランナーに安曇野の自然や人の魅力を感じてもらい、安曇野ファンを獲得するとともに、市民についても大会運営への参画や応援を通じ、地域に対する誇りと愛着を持っていただく。 | | |
| 実施場所 | 豊科南部総合公園 | 事業期間 | 平成26年12月～平成27年6月 |
| 事業の概要 | 拾ヶ堰や安曇野の田園地帯をコースとして、ハーフマラソンを実施する。安曇野ならではの食の提供などでランナーへのおもてなしを実施するとともに、市民についても運営ボランティアや応援などに参画していただく。 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|--------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 参加者募集、協賛金募集等 |
| | 相手側 | ランナーへのおもてなし |
| | 市側 | 大会運営全般 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 大会参加者の満足度も高く、500名を超える市民がボランティアに参加した。 |
| 協働による効果 | 双方が責任を持って自身の役割を果たすことにより、参加者に対しきめ細かな対応ができ、満足度の向上につながった |
| 課題・改善点 | 準備段階において、更なる情報交換・意見交換が必要である。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第31回信州安曇野あやめまつり |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | あやめまつり実行委員会 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 | |

メインイベントでの会場風景

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 旧明科町から続くイベントで、4年前までは観光協会が主体となって開催していたが、3年前より市が主体となり実施している。 更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。 | | |
| 事業の目的 | 水郷明科のあやめの魅力を広く伝え、永く後世に残すとともに、市内外からの誘客による交流人口拡大を図る。 | | |
| 成果目標 | 多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。 | | |
| 実施場所 | あやめ公園・龍門淵公園 | 事業期間 | 平成27年6月19日～6月30日 |
| 事業の概要 | 明科のあやめ公園、龍門淵公園を主会場とし、様々なイベントを実施した。今年は市制施行10周年記念として、松筑雅信会の皆さんによる雅楽の演奏会や鉄拳のパラパラ漫画上映会、メインステージでの明科高校書道部の皆さんによる書の披露などを行った。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | イベントの企画・運営 |
| | 相手側 | イベントへの参加 |
| | 市側 | 会場の設営・広報・庶務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 前回と同じ程度の集客数であった。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 更なる発展に向け、協働の体制を強化していくこと |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 第32回信州安曇野わさび祭り | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 信州安曇野わさび祭り実行委員会 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 | | |

納涼祭ステージ

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|----------------|
| 取組の背景・課題 | 旧穂高町から続くイベントで、市民一体感の醸成や交流人口拡大のため実施している。納涼祭と YOSAKOI 安曇野の2日間で構成しており、更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。 | | |
| 事業の目的 | 穂高の夏のイベントとして定着してきた『信州安曇野わさび祭り』を通じて、観光客の誘客による交流人口の拡大を図るとともに、地域一体感の醸成を図る | | |
| 成果目標 | 多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。 | | |
| 実施場所 | 穂高駅前通り・穂高神社 | 事業期間 | 平成27年8月1日～8月2日 |
| 事業の概要 | 穂高地域の夏を盛り上げるイベントとして、1日目に納涼祭、2日目に YOSAKOI 安曇野を実施した。納涼祭では、分館連を中心に31連、約2,250名が穂高音頭・HOTAKAサンバを踊った。2日目の YOSAKOI 安曇野では、過去最多の47チーム、約1,300人が参加しよさこい踊りを披露した。 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|-------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | イベントの企画・運営 |
| | 相手側 | イベントへの参加 |
| | 市側 | 会場の設営・広報・庶務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 踊り参加者は昨年より増えたが、来場者数は前回と同じ程度であった。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 更なる発展に向け、協働の体制を強化していくこと |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 市制施行 10 周年記念 第 9 回安曇野花火 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 実行委員長 小林知之 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 | | |

安曇野の夜空を彩る

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 旧 5 町村が合併したことをきっかけに、市民の一体感の醸成と市の振興を目的に商工会などが中心となって開催。年々規模が大きくなっており、安全面や運営方法について検討が必要。 | | |
| 事業の目的 | 市民の一体感の醸成と、郷土の振興を目的とする。 | | |
| 成果目標 | 安曇野花火を通じた観光交流人口の拡大。 | | |
| 実施場所 | 明科御宝田遊水池周辺 | 事業期間 | 平成 27 年 8 月 14 日 |
| 事業の概要 | 約 13,000 発の花火の打ち上げ。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。 |
| | 相手側 | 各種申請、関係団体調整。 |
| | 市側 | 各種申請、関係団体調整。 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 安曇野の夏を代表するイベントとして、大きな誘客効果がある。年々来場者が増加している。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 市と実行委員会の役割を明確にし、より安全な大会運営を行う。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|----------|---------|--|--|---|
| 事業の名称 | | 市制施行10周年記念 第47回安曇野観光草競馬大会 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施 団体 | 相手 側 | 会長 太田和男 | | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 | | |

白熱したレースを展開する

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------|
| 取組の背景・課題 | 全国でも珍しい草競馬大会を開催し、動物とのふれあいの機会を設けるとともに観光交流人口の拡大を図る。多くの来場者が訪れるが、昼に行われるアトラクション目当ての地元の来場者が多い。 | | |
| 事業の目的 | 動物とのふれあいの機会を設けるとともに、観光交流人口の拡大を図る。 | | |
| 成果目標 | 全国でも珍しい草競馬大会を通じ、観光交流人口の拡大を図る。 | | |
| 実施場所 | 市営牧運動場 | 事業期間 | 平成27年9月27日 |
| 事業の概要 | 予選レース、決勝レース、ポニー乗馬体験、小動物ふれあい広場の設置 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。 |
| | 相手側 | 各種申請、関係団体調整。 |
| | 市側 | 各種申請、関係団体調整。 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 来場者はあるが、市外・県外からの来場者を増やしたい。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 市外からも来場があるようにイベント等の開催を検討する。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 市制施行 10 周年記念 第 32 回早春賦まつり |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | 実行委員長 若宮昭三 | |
| | 市側 | 商工観光部 観光交流促進課 | |

早春の安曇野に歌声が響く

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|------------------|
| 取組の背景・課題 | 日本を代表する叙情歌「早春賦を」後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を通じて観光交流人口の拡大を図る。穂高地域では卒業式に早春賦を歌う学校もあるが、市内でも地域によって認知度に差がある。まつりに毎年訪れるリピーターもいる等深い関心を持っている来場者も多い。 | | |
| 事業の目的 | 日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。 | | |
| 成果目標 | 県内外から来場者を集め、「早春賦」を歌い広める。 | | |
| 実施場所 | 穂高川右岸 早春賦歌碑前 | 事業期間 | 平成 27 年 4 月 29 日 |
| 事業の概要 | 小学生・術文化協会コーラス部・アルパクラブ演奏、早春賦大合唱 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 運営方法決定、当日の運営、課題抽出。 |
| | 相手側 | 出演者、関係団体との交渉。 |
| | 市側 | 各種申請・手配。関係団体との調整。 |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 毎年訪れるリピーターがいる等、深い関心を持っている来場者も多い。 |
| 協働による効果 | 相乗効果により多くの来場者に訪れていただくことができた。 |
| 課題・改善点 | 穂高地域以外にも認知度を高めたい。市外からの来場者を増やしたい。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | 第 25 回 信州安曇野薪能 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（補助金） | |
| 実施団体 | 相手側 | 信州安曇野薪能実行委員会 | |
| | 市側 | 教育部 文化課・生涯学習課 商工観光部 観光交流促進課 | |

【事業の概要】

市内の子供たちによる連吟の披露

| | | | |
|----------|--|------|----------------------------------|
| 取組の背景・課題 | 平成 3 年から平成 17 年まで開催された「水郷明科薪能」を継承し、平成 18 年から「信州安曇野薪能」として開催。 明科出身の観世流能楽師で安曇野市名誉市民故青木祥二郎氏、ご子息の青木道喜氏のお力添えにより、豪華な出演者をお迎えして実施しており、市民が一流の文化芸術にふれる機会となっている。 | | |
| 事業の目的 | 格調高い薪能公演の実施を通して、観世流能楽師で重要無形文化財保持者の栄誉を受けられ、安曇野市名誉市民でもある故青木祥二郎先生（安曇野市明科中川手出身）の業績を顕彰し、安曇野市の芸術文化の向上並びに観光振興を図る（実行委員会規約より） | | |
| 成果目標 | 来場者数 1,000 人 | | |
| 実施場所 | 明科龍門淵公園特設能舞台 | 事業期間 | 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 |
| 事業の概要 | 講演の期日 平成 27 年 8 月 22 日（土） 演目 能「花月」 狂言「萩大名」 能「松風」 能「石橋」 主な出演者 片山九郎右衛門、青木道喜、宝生欣哉、野村萬ほか 実行委員会は年 4 回の会議を開催しながら、資金の調達（企業への協賛依頼、協賛金の集金、入場券販売等）ほかの準備を行い、公演当日は会場において設営から始まり出演者の接待、来場者への案内等サービス、会場の管理、撤収作業（一部）までを行う。 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|----------|-------|-------------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 会場設営、広報 |
| | 相手側 | 企業への協賛依頼等資金集め、入場券販売 |
| | 市側 | 補助金による活動の補助、能装束展（会場 穂高交流学習センター みらい） |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 入場者数 797 人、 |
| 協働による効果 | スタッフには「水郷明科薪能」が始まった当初から関わっているメンバーも多く、明科地域独自のつながりを生かした運営により、資金集めや入場券販売、当日の会場の運営までスムーズに行う事ができた。 |
| 課題・改善点 | 会場を明科以外の場所に移して開催するなど、安曇野市全域に認知度を高める取り組みが必要と考えられる。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 事業の名称 | | 第 11 回あづみの公園早春賦音楽祭 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（補助金） | |
| 実施団体 | 相手側 | あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会 | |
| | 市側 | 教育部 文化課 商工観光部 観光交流促進課 | |

吹奏楽の祭典」会場 Cステージ

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-----------------|
| 取組の背景・課題 | 「早春賦音楽祭」のプレステージとして、平成 17 年、開園した国営アルプスあづみの公園で始まり、平成 27 年度で 11 回を数える。 地域連携の中で音楽を通じた社会教育の促進、観光の促進、観光の振興を目指す。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野の自然・風景を活かしたあづみの公園において、市民参加による音楽会を開催し、安曇野に生まれた愛唱歌「早春賦」を始め、地域に歌い継がれている数々の歌を通して、多くの人々に安曇野の優れた地域文化と安曇野の良さを知っていただき、これをもって安曇野地域の振興に寄与する（実行委員会規約より）。 | | |
| 成果目標 | 来場者数 16,000 人 | | |
| 実施場所 | 国営あづみのアルプス公園（堀金穂高地区） | 事業期間 | 平成 27 年 5 月 4 日 |
| 事業の概要 | オープニング演奏、早春賦合唱、市内中学校・高等学校吹奏楽部による演奏、FM長野公開録音ステージ（重唱・合唱コンクール優秀校による演奏、中学校アンサンブルコンテスト優秀校の演奏、音楽交流広場）、安曇野市太鼓チームの演奏、自由ステージ、公募ステージ、コンサートなど 特別ゲスト：「ママノリア」滝澤 毅氏（松本市出身 歌手）のステージ他 | | |

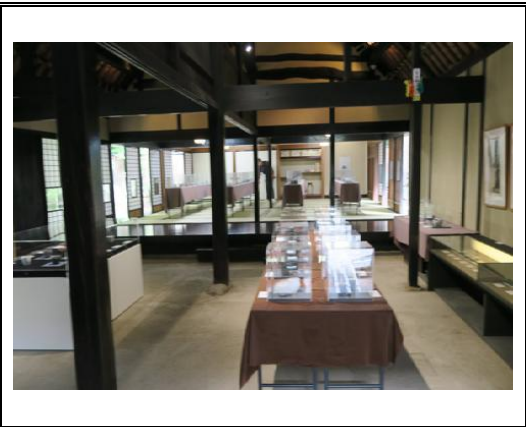
【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|---------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 会場設営、当日の運営 |
| | 相手側 | 実行委員会の会議開催、当日までの各団体の連絡調整、 |
| | 市側 | 学校との調整、補助金交付 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 来場者数 14,000 人 |
| 協働による効果 | ・安曇野の文化振興に寄与する事業であり、協働で取り組んだことにより学校関係、市民への広報を充実させることができた。また市内施設等の利用の面において市側が協力することで、より多くの市民が参加することができた。 |
| 課題・改善点 | ・来場者のための駐車場の確保と交通手段について検討が必要。 ・補助金に依拠した事業であり、今後は自主財源の確保が必要となってきた。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第4回そば猪口アート公募展 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | そば猪口アート展実行委員会 | |
| | 市側 | 教育部 文化課 （安曇野高橋節郎記念美術館） | |

高橋節郎記念美術館主屋での展示

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|--------------------------|
| 取組の背景・課題 | 平成23年、NHK朝の連続ドラマ「おひさま」の放送に合わせ、「そば」に関わる一連の事業展開の中で、作家への出品依頼による「そば猪口アート展」を開催した。この取組を、一般公募として、平成24年より「そば猪口アート公募展」として継続している。安曇野の特産品である「そば」と、工芸の分野で活躍した高橋節郎の業績を踏まえ、小さな工芸作品である「そば猪口」に特化したコンテストを行い、展覧会を行っている。 | | |
| 事業の目的 | 工芸美術の振興、新進の工芸作家の発掘、特産品である「そば」と美術の連携 | | |
| 成果目標 | 有望な新進工芸作家の発掘、工芸美術の振興、市内における「そば」に関わる事業との連携推進 | | |
| 実施場所 | 安曇野高橋節郎記念美術館・瀬戸市新世紀工芸館（愛知県）・白鷹町文化交流センターあゆ一む（山形県） | 事業期間 | 平成27年7月1日 ～平成28年2月29日 |
| 事業の概要 | そば猪口をテーマとした工芸作品を一般に公募したところ、第4回となる今回の公募展への応募は、246人、295点であった。国内での周知にも関わらず、台湾からも3名の作家が作品を寄せた。厳正な審査を経て、116点の作品を入選とし、10点を入賞とした。作品は高橋節郎記念美術館で展示した後、瀬戸市新世紀工芸館（愛知県）・白鷹町文化交流センターあゆ一む（山形県）へと巡回している。高橋節郎記念美術館での会期中には、安曇野スタイル期間（10月31日～11月4日）を中心に、あづみ野コミュニケーション チェルルにおいて、入選作家の有志の作品展示・販売を行った。また「新そばと食の感謝祭」に実行委員として参加し、感謝祭において作家による作品の展示・販売の機会を設けた。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 作品公募、展覧会の周知 |
| | 相手側 | 作品の審査、展示・販売会場の提供 |
| | 市側 | 広報、展示 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | <p>第1回公募展実施以来、毎年、応募者数が増加している。全国各地への巡回展示の会場も増え、安曇野市、高橋節郎記念美術館、そば等の周知の機会となっている。</p> <p>有望な工芸家が入選している。入選の情報をそれぞれの属する大学・工房・勤務先等のホームページに、成果発表として公開している者も多い。また、作家のプロフィールに記載する者もあり、工芸美術作家の登竜門と認められてきている。安曇野市商工会の「新そばと食の感謝祭」の実行委員として、初回より参加依頼があり、相互に事業協力を行っている。</p> <p>市内の店舗「あづみのコミュニケーション チロル」での入選作家の作品展示・販売を行い、工芸作家が社会へ出る機会となっている。展示終了後も、店舗において引き続き連絡をとっており、工芸作家支援の取り組みとなっている。</p> <p>農政部局の「そば焼酎」の取り組みとの連携も検討されており、部局を超えた事業へと拡大している。</p> |
| 協働による効果 | <p>応募作家の増加、国内外への発信、巡回展の実施</p> <p>東京藝術大学の三田村有純教授に実行委員長・審査委員長に就任いただき、三田村教授の推薦する評論家・工芸家に審査に加わっていただいている。協働の取り組みでなければ適わない入選であり、応募作家にとって、これらの審査員に評価してもらえることが、この公募展の魅力となり応募者の増加、質の向上につながっている。</p> |
| 課題・改善点 | <p>台湾から作品が寄せられ、国内の留学生等からの応募も増え、国際公募展の相を呈してきている。その一方で、安曇野市在住作家の応募が減り、地元での話題性が減少してきている。市内の作家への出品要請を行うとともに、質の向上を図りたい。</p> <p>出品作品の増加により、質の向上が著しい。会場の設備の都合上、展示点数を絞らざるを得ない状況にある。</p> |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|---|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野文化刊行事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（補助金） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野文化刊行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 | | |

安曇野文化 第17号表紙

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|---------|
| 取組の背景・課題 | 三郷地域において30年間刊行されてきた「三郷文化」を継承発展させ、平成23年秋から季刊誌「安曇野文化」を刊行。現在（平成28年1月）、17号まで発刊。 平成23年5月に刊行委員会発足。「三郷文化」は、三郷郷土研究会と教育委員会が協働で刊行していた経緯があり、「安曇野文化」刊行に際しては、市から補助金を交付し、当面の間、文化課が事務局を担うことになった。安定した刊行を目指し購読者数を増やすことが課題。 | | |
| 事業の目的 | 「安曇野の恵まれた文化を広く見つめ、ふるさとの自然と歴史、文芸、教育、産業、生活等の万般の文化に更に光を当て、広く市民に享受していただくと共に、地域文化を創造し大切にすることによって、地域の活性化と一層の安曇野市の文化の発展を期待することを目的に季刊誌「安曇野文化」をつくる」（刊行委員会規約より）。 | | |
| 成果目標 | 購読者数 ・目標：600人 （「三郷文化」最終号：約460人、「安曇野文化」創刊号：約500人、平成28年1月現在：531人） | | |
| 実施場所 | — | 事業期間 | 平成23年 ～ |
| 事業の概要 | （平成27年度） 1 刊行委員会、編集委員会の開催 2 「安曇野文化」の刊行 第15号（春号） 平成27年5月末 第16号（夏号） 平成27年8月末 第17号（秋号） 平成27年11月末 第18号（冬号） 平成28年2月末 発行予定 3 その他 予算額：約3,000千円。購読料及び安曇野市からの補助金により事業実施。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|--------------------------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | ・ 刊行委員会、編集委員会の開催 ・ 購読者数増に向けての取り組み |
| | 相手側 | ・ 各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布、会計 |
| | 市側 | ・ 事務局を担当（会議の運営） |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 新規購読者もいるが、従前からの購読者が高齢化し購読停止となることも多い。全体としての購読者数はほぼ横這い状態である。 |
| 協働による効果 | 三郷地区に限定されていた内容が市全域となり、購読者も市内全域に広がった。安曇野の文化について、広く発信することができている。 |
| 課題・改善点 | 市からの補助金に頼らない運営（刊行）。そのためには、魅力的な紙面づくり及び広報に努め、購読者を増やす必要がある。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | 第16回安曇野紙ヒコーキ競技大会 (飯沼飛行士記念大会) |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他() | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野紙飛行機競技大会 実行委員会 | |
| | 市側 | 教育部 文化課 | |

大会の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|----------------|
| 取組の背景・課題 | 飯沼飛行士の顕彰並びに、紙飛行機の普及を通して青少年に健全な遊びを提供し、高齢者の健康増進を図ることを目的に共催に加わる。 市側は、合併後に、子ども支援担当から文化振興担当になる。 | | |
| 事業の目的 | 郷土の鳥人「飯沼正明飛行士」を顕彰し、県内外の紙飛行機愛好家が集い、競技会・紙飛行機教室を開催することにより、紙飛行機の普及と親善を図る。 | | |
| 成果目標 | 紙飛行機教室、紙飛行機競技大会の開催 | | |
| 実施場所 | 豊科南部総合公園 | 事業期間 | 平成27年4月11日、12日 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・11日(土)には紙飛行機教室を開催し、主に子どもを対象として紙飛行機の作り方や飛ばし方を教えた。また同時に初心者クラスの大会を開催し、12人が参加した。 ・12日(日)には競技大会を実施し、28人が参加した | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|-------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | |
| | 相手側 | 教室、大会の企画・運営 |
| | 市側 | 会場準備、記念品の用意 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 全行程を滞りなく実施した。 |
| 協働による効果 | 飯沼正明飛行士の業績を発信することができた。 |
| 課題・改善点 | 協働事業としての位置づけが適格か再考すべき。 参加者の拡大が認められず、愛好者の親睦大会にとどまっている。参加者拡大のために情報発信が必要。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野市制施行 10 周年記念企画展 「興味津々あづみの FOOD」 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市商工会 | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 | | |

学芸員によるギャラリートーク

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|---------------------------|
| 取組の背景・課題 | 平成 27 年度の豊科郷土博物館夏の企画展は安曇野市制行 10 周年記念企画展でもあることから安曇野市商工会と共催して「興味津々あづみの FOOD」展を開催しました。地域食や食文化を題材とし、伝統食や地元の郷土食を見つめなおすことにより、食を通しての地域連携の高揚や地元飲食業を振興していくという課題を設けました。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野の風土や食文化の紹介のほか、地元飲食業の振興 | | |
| 成果目標 | 市民への紹介のほか、他地域との交流や地元飲食産業の振興 | | |
| 実施場所 | 豊科郷土博物館 | 事業期間 | 平成 27 年 6 月 27 日～8 月 30 日 |
| 事業の概要 | 安曇野の風土や人々が作ってきた食文化の紹介。江戸時代の松本藩主のお姫様に出されたおもてなしの膳、高度経済成長期以前の日常の食事や正月のごちそうなどから、安曇野の食文化の特色を見つめなおし、安曇野で生まれ、受け継がれてきた食文化の展示や講演会やギャラリートーク等の開催。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|----------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 企画、展示、調査、研究、諸業務 |
| | 相手側 | 展示、調査、研究、協力店舗依頼、共催金 |
| | 市側 | 企画、協力依頼、展示、調査、研究、諸業務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 充分達成した |
| 協働による効果 | 食文化の紹介のほか、地元飲食業の紹介や振興に効果があった。 |
| 課題・改善点 | 双方の連携をより十分に行う。事業の振り返りをより十分に行う。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野市美術館博物館連携事業 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 文化課 | | |

ギャラリートーク実施風景

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|--------------------------------------|
| 取組の背景・課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市内には 20 以上の美術館や博物館があり、文化芸術に触れる場が多く提供されている。一方で各施設の規模が小さい、効果的な広報活動や教育普及活動ができないなどの課題を抱えている。 ・平成 24 年 2 月実行委員会発足。文部科学省の補助金を得て、平成 24 年度から事業実施。 | | |
| 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内の博物館及び美術館の連携事業の実施を通して、安曇野市の芸術文化の向上並びに観光振興を図るために、事業の円滑な運営にあたる（実行委員会規約より）。 ・各施設が連携することにより、市内の美術館博物館が全体として地域文化の振興の核としての役割を果たし、安曇野市としての一体感の醸成に寄与する。 | | |
| 成果目標 | 「ギャラリートークリレー」参加者 1,200 人以上 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内の美術館、博物館 | 事業期間 | 平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 28 年 3 月 11 日 |
| 事業の概要 | 1 ギャラリートークリレー 対象は一般来館者。作品理解のためのギャラリートークを単館で行うのではなく、来館者が連続して受けられるよう各施設で実施時間を調整し、リレー形式でバトンを渡すよう工夫して実施する。来観者の満足度を上げることを目標とし、さらに美術館博物館の学芸員等の資質向上を目指す。職員が直接来観者に接し、積極的にギャラリートーク行う事で来観者のニーズを把握し、スタッフのスキル向上を図る。 2 ミュージアムスタンプラリー 対象は市内小学生。スタンプラリーの台紙を小学生に配布し、美術館博物館を周遊できるようにする。夏休み期間中に開催する。施設の職員が少人数であったり、事業への負担が多いなどの理由で一連の事業に参加できない施設も容易に参加することができる事業である。 3 出前展覧会 各施設が収蔵する作品を、市民が集まる場所で展示し、そこを訪れる人に作品 | | |

| | |
|--|--|
| | <p>に触れる機会を提供する。</p> <p>4 あづみの学校ミュージアム 各施設が収蔵する作品を学校で展示し、ギャラリートークと併せて鑑賞教育を行う。準備段階より学校の担当教員との連携を図り、相互の意見のすり合わせと認識の共有を行うことでより効果的な鑑賞の機会となるよう努める。</p> <p>5 学芸員研修会 実行委員会に参加する施設の学芸員や職員の参加を募り、地域とともにある美術館博物館の在り方を学ぶ機会とする。</p> |
|--|--|


【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-----------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 企画立案 |
| | 相手側 | 事業の実施 |
| | 市側 | 印刷物等の作成、広報、日程調整、会計事務等 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | ギャラリートークリレー参加者：1,241人 |
| 協働による効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化振興が促進された。 ・安曇野市の強みを発揮し、各方面に発信することができた。 |
| 課題・改善点 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施事業について、それぞれ目的と方法を明確にするなど再検討する必要がある。 |

【事業の名称等】

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 事業の名称 | | あづみのフィルムアーカイブ事業 |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | |
| 実施団体 | 相手側 | あづみのフィルムアーカイブ | |
| | 市側 | 教育部 文化課 | |

ラジオ体操：S30年代後半（堀金）

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-----------------|
| 取組の背景・課題 | 市民提案による市制施行10周年記念事業として実施。現在、8mmフィルム等は散逸または劣化が進み危機的状況にあり、保存活用を進める最後の機会である。 | | |
| 事業の目的 | 市制施行10周年記念事業「よみがえる安曇野」制作 映像史料のデジタル化を進め博物館等での保存活用を図る | | |
| 成果目標 | 8mmフィルムの提供本数100本うちデジタル化…80本／上映会の開催 | | |
| 実施場所 | 安曇野市内 | 事業期間 | 平成27年8月～平成28年3月 |
| 事業の概要 | 昭和30～50年代の安曇野の様々な風景、農作業等日常の風景、運動会・お祭り等地域行事、子どもの成長記録等々、家庭等で撮影した8mmフィルムを収集し、貴重な映像史料としてデジタル化を行なう。出来上がったDVD等は、映像提供者の他、映像史料として教育委員会で保管する。また、映像提供者への取材の様子も取り入れながら、新たな安曇野の創造へ繋がるような映像作品を制作する。出来上がった作品は上映会を開催し市民の皆さんに観てもらおう。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|---|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 映像使用等許可関係 上映会の開催 事業報告書の作成 |
| | 相手側 | HP開設・チラシ作成 フィルムのデジタル化 提供者への取材 映像制作 |
| | 市側 | 広報掲載 フィルム提供関係事務 収録・取材協力 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | フィルム提供本数100本→276本。うちデジタル化80本→全体の約半分 |
| 協働による効果 | 作品制作は、BGM収録等多くの市民の方に参加協力していただくことができた。 |
| 課題・改善点 | デジタル化できなかったフィルムの中にも貴重な映像があるため翌年度以降もデジタル化を進めたい。映像(史料)について今後の活用方法を考えていきたい。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|--|
| 事業の名称 | | 安曇野さんぽ市 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野さんぽ市実行委員会 | | |
| | 市側 | 教育部 図書館交流課 | | |

「安曇野さんぽ市」開催中の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|---|------|----------------|
| 取組の背景・課題 | ものづくり作家や職人自身と、使う人が直接顔を合わせ、出会える場所、散歩気分で立ち寄って交流できる場を創出することを目的とした事業。図書館を核とした市民の学習拠点、交流の場である穂高交流学習センターを会場として「安曇野さんぽ市」を開催している。 | | |
| 事業の目的 | 作家（出展者）と市民、あるいは作家、市民同士の交流の促進。また、会場である穂高交流学習センターを多くの方に親しんでもらい、交流の場としての役割を果たす。 | | |
| 成果目標 | 人の出会いと交流の創出と定着。 | | |
| 実施場所 | 穂高交流学習センター「みらい」 | 事業期間 | 平成27年5月23日、24日 |
| 事業の概要 | 安曇野にて活動するものづくり作家や職人たちが主に出展者となり、手づくり品の展示・販売・ワークショップを行う。 | | |


【協働の役割分担】

| | | |
|------|-------|--------------------------------------|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 催事当日の運営（設営・撤収含む）、告知・広報等 |
| | 相手側 | 参加者受付、区画割り（調整）等 |
| | 市側 | 催事中の多目的交流ホール、展示ギャラリー、交流広場他の管理、駐車場案内等 |

【実施結果】

| | |
|-----------|--|
| 成果目標の達成状況 | 来場者には概ね好評をいただいている。「安曇野さんぽ市」の認知度は向上しており、交流の場として市民に定着しつつある。 |
| 協働による効果 | 交流する場の創出と定着の促進。 |
| 課題・改善点 | 全体を通してじっくりと話し合う機会が少ないため、今後は密な情報共有及び交換をするべく、会議の場を調整し、設けること。 |

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|--|
| 事業の名称 | | 安曇野スタイル | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野スタイルネットワーク | | |
| | 市側 | 教育部 図書館交流課 | | |

安曇野スタイル開催中、参加施設の様子

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|----------------------------|
| 取組の背景・課題 | 安曇野のローカル情報を集めたマップ発行の目的から組織が立ちあげられ、そのマップを片手に安曇野を巡ってもらう「安曇野スタイル」へと発展。安曇野の魅力を全国に、また、地域の人々にも伝えるべく、市民レベルの活動に留まらず、行政と共に地域を活性化させる目的の事業。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野地域に暮らす人、安曇野を訪れる人に対して、安曇野を拠点、活動場所とする作家や施設が普段とは違うおもてなしを行い、人の交流を生み地域と文化の発展に繋げる。 | | |
| 成果目標 | 交流の創出と地域、文化の向上・発展。 | | |
| 実施場所 | 安曇野市、池田町、松川村の各参加施設（自宅）にて | 事業期間 | 平成 27 年 10 月 30 日～11 月 3 日 |
| 事業の概要 | 安曇野地域にて活動する作家、工房、飲食店、宿泊施設などが、一定期間、安曇野に暮らす人、安曇野へ訪れる人のために特別なおもてなしを行う。 | | |

【協働の役割分担】


| | | |
|------|-------|---|
| 役割分担 | 一緒の取組 | 説明会等の開催、作品展示の搬入出、安曇野スタイル開催の告知・案内等 |
| | 相手側 | ガイドマップ製作、参加施設（者）取り纏め、協賛施設への連絡等 |
| | 市側 | 安曇野スタイル参加施設（者）の作品展示、安曇野スタイル期間中の総合案内、ワークショップなど催事場所の提供等 |

【実施結果】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 成果目標の達成状況 | 概ね好評であり、安曇野スタイルの認知度も向上している。 |
| 協働による効果 | 安曇野を訪れる人、安曇野に暮らす人の交流の創出、地域文化の振興。 |
| 課題・改善点 | 運営（安曇野スタイルネットワーク）を担う人材の不足。 |

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

| | | | | |
|-------|-----|--|--|---|
| 事業の名称 | | 安曇野市子ども文化祭 | |  |
| 協働の形態 | | 1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ） | | |
| 実施団体 | 相手側 | 安曇野市子ども学芸クラブ | | |
| | 市側 | 教育部 生涯学習課 | | |

子ども映画教室常念チーム ステージ挨拶

【事業の概要】

| | | | |
|----------|--|------|-------------|
| 取組の背景・課題 | これまでは、大人の文化祭・芸能祭にお邪魔して参加するというイメージだったため、「主役は子どものみ」という子ども達だけの文化祭を計画した。 H25年度に設立した安曇野市子ども学芸クラブの周知、新規加入団体の獲得も視野に入れた事業とする。 | | |
| 事業の目的 | 安曇野市子ども学芸クラブの発展、かつ子ども達に発表の場を提供する。 | | |
| 成果目標 | 安曇野市子ども学芸クラブ新規加入団体の獲得 | | |
| 実施場所 | 穂高交流学習センター 「みらい」 | 事業期間 | 平成27年11月28日 |
| 事業の概要 | 子ども達だけの文化祭。 ステージ発表・作品展示・体験交流などを行い、日頃培ってきた技術、能力の発表の場とする。また、同世代の発表を見て、いろんな分野に触れ合うことのできる場とする。 | | |

【協働の役割分担】

| | | |
|----------|-------|-----------------------|
| 役割 分担 | 一緒の取組 | 文化祭開催までの運営について打合せ会議開催 |
| | 相手側 | 参加団体募集活動。ポスター用作品作成。 |
| | 市側 | 運営事務 |

【実施結果】

| | |
|-----------|---|
| 成果目標の達成状況 | 新規加入団体の獲得はできなかった。 |
| 協働による効果 | いろんなジャンルで活動している子どもたちが参加できた。 |
| 課題・改善点 | 運営について市側の事務量過多になってしまった。的確な役割分担をすべきであった。 |

平成 28 年 3 月 30 日発行

発行元：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課

まちづくり推進係（本庁舎 2 階 4 番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176